

# みどり森の15年間をふりかえって

2011～2025年

気が付けば、私たち株式会社 自然教育研究センターが緑の森博物館の指定管理業務にかかわって15年がたちました。散策路をめぐり歩くと、ここではあんなことやこんなことが…と思い出は尽きません。

そんな思い出を、ギュッと集めてご紹介します！地図の場所とあわせてごらんください。

へえ～、ここでこんなことが?! というエピソードがわかりますよ。

## 思い出MAP その1



## 自然災害エピソード

自然の力にはかなわない！  
と感じた4つのエピソード

### 余震続く中での観察会（2011年4月16日） MAP-①

大人の自然観察会のさなか、地面がふわふわするような揺れを感じました。地震だ！参加者の携帯のアラートがいくつも鳴って道沿いのロープが揺れています。雑木林の木々も揺れ、緊張が走りましたが、みなさん落ち着いて行動され、園路の異常もなく、観察会は無事に終了しました。

3.11後の余震が多かった時期で、イベント中に地震を感じたこの日のことは忘れられません。

### 大雪で（2014年2月9日） MAP-②

関東に大雪警報が発表されたこのとき、みどり森でも30cm、吹き溜まりなどは50cmという、まれにみる積雪量となりました。雪の重みで倒木やかかり木があちこちで発生。園路巡回するには雪をラッセルして進むようでした。

写真：柵のロープが埋まるほどの積雪だった  
トンボの湿地（杭の高さはおよそ60cm）  
右はふだんのトンボの湿地



### 台風9号による土砂崩れ（2016年8月22日） MAP-③

上陸した台風9号の風雨により狭山新道に土砂崩れが発生。2か月に渡り通行止めになりました。入間・所沢・青梅付近では1時間に100～120mmの降雨を観測し、近くの不老川も一部氾濫するなど、周辺にも多くの被害が出ました。

土砂崩れ箇所はニリンソウの群落があり、土砂で埋もれてしまいましたが、徐々に復活して2025年には花を咲かせました。



右手斜面からの土砂がロープと杭をのりこえて道をふさいでいる。

## ナラ枯れ発生！雑木林の危機（2020年～）

2020年、狭山丘陵にカシノナガキクイムシが媒介する菌によるナラ枯れが発生しました。みどり森の敷地でも大量のクヌギ・コナラが枯れ、倒木や落枝の危険が増し、5年たった今も園路の1割近くを閉鎖する事態となっています。

雑木林を代表する樹種の大量枯死によって、狭山丘陵で雑木林を管理する団体の中には、樹種転換をはかる動きも見られました。

みどり森の雑木林はかつて人々が営んでいたように利活用する形で保存するという目的があります。ナラ枯れを通して、改めてみどり森の雑木林のあるべき姿を考えさせられました。



テイカカズラが繁茂する  
ナラ枯れの木々

## 里山保全、景観保全エピソード

みんなで力を合わせた  
エピソード

### スタッフ総出のヨシ刈り

MAP-④



毎年3月に行うヨシ刈りはスタッフ総出の人力作業。集草や流路整備、周りから入り込むツルの刈払いなど、湿地の景観維持には欠かせない作業です。

湿地は希少なカヤネズミなどの生息地にもなっています。毎年作業前に巣のカウント調査も行い、カヤネズミの巣が見つかったら、今年もここで生きてるんだなと嬉しくなりました。



### 協働作業で雑木林やため池を管理 MAP-⑤

平成24年にできた「さいたま緑の森博物館保全活用協議会」では、博物館エリア内で活動するボランティア団体や自治会、市の関係課等で保全と活用について様々な検討をしています。

その中で団体の枠を超えて様々な人が力を合わせ保全活動を行う協働作業では、『かいぼり』や『雑木林整備』を行いました。普段は一緒に活動しない仲間との作業はとても良い交流の場となり、この地域の古くからの作業の方法（山の片し方）や風景を受け継ぐ場となっていました。



### 宮寺小学校 武蔵野の雑木林体験学習（2020年～） MAP-⑥

2011年から毎年行っていた5年生の稲作体験学習を皮切りに、2020年からは全学年をとって雑木林と農の関係を学ぶ体験学習が始まりました。昔から受け継がれてきた雑木林と人とのかわりが地域のこどもたちにも受け継がれています。

宮小学年ごとの内容  
1年生：どんぐりの苗木づくり  
2年生：苗木の植え替え  
3年生：下草刈り、落ち葉かき  
4年生：落ち葉堆肥の観察  
5年生：稲作  
6年生：伐採、植樹



### 24時間テレビ協働（2013～2023年） MAP-⑦

日本テレビ番組「24時間テレビ」で、さいたま緑の森博物館里山保全プロジェクトとして、11年に渡ってどんぐりの苗木作り、植樹、外来植物の抜き取り、ロープ柵の設置などの保全活動を行いました。抜き取ってもなかなか絶えない外来植物キョウブには悩まされました。



### アカマツ林の再生

MAP-⑧

みどり森ボランティア会と協働で、敷地内のアカマツのタネから苗を育て、植樹し、かつてのアカマツ林再生を試みています。アカマツ林がよみがえるとハルゼミなどの生きものも復活するかもしれません。



アカマツ植樹の  
記念撮影